

読書活動だより.70

編集・発行 静岡県読書推進運動協議会

静岡市駿河区谷田53-1
静岡県立中央図書館内
TEL 054-262-1246

本を贈る

静岡県読書推進運動協議会 理事
静岡県書店商業組合 副理事長
株式会社島田書店花みずき店 店長
佐塚 慎己

この原稿を書いている年末は、クリスマスプレゼントとして子どもさん、お孫さんに本を贈るお客様が大勢いらっしゃいました。スタッフ総出でひいひい言いながら包装し、閉店した後は皆心地よい疲れを感じました。1年間で一番本屋が活気づく期間でしょうね。

私は、小学生の頃は本よりも、おもちゃやゲームをねだった記憶があります。店舗と住居が一緒だったこともあり、本が身近過ぎたのかもしれませんが。しかし忘れもしません、小学4年生の時のクリスマスプレゼントは日本の偉人の伝記です、全部で12冊ほどのセットでした。漫画のドラえもんで、のび太がサンタにゲームをおねだりしたら、サンタ(父親)から今年のプレゼントは“えらい人の本です”と返事が来て、のび太は愕然としてしまいます、私もそうでした。彼はドラえもんのおかげでなんとかゲームを手に入れましたが、私はそのまま伝記を頂きました。

最初は、織田信長、源義経と有名な人物から読み始め、一巻・一巻読み終わるのになかなか苦労しましたが同じ

くらいの爽快感、達成感も味わったと思います。今思うとこれが私の歴史小説好きの始まりとなったのでしよう。この後、三国志に興奮し、司馬遼太郎にはまり、宮城谷昌光を全巻読破など、私の半生の読書体験の根っこ部分は、親からの贈り物から始まったのでした。

出版社の絵本館では、子どもが本を好きになるための『5カ条』が以下のように書かれています。(1)本代としておこづかいをわたす。(2)子どもといっしょに本屋に行く。(3)親も子どもも自由に本をえらぶ。(4)子どもがどんな本をえらんでもけっしてもんくを言わない。(5)そして買ってかえる。自分で選ばせる事が重要なのです。

「良い本を「与える」という発想はダメです。家畜にエサを与えるわけじゃないんだから」

なるほど私の場合は、結果オーライだったわけですね。私の子供たちには、彼らが自分で本を選んで豊かな読書習慣を得た後、彼らと読書体験を共有したいので自分の読んできた本を「贈ろうと思います」。

《内容紹介 (もくじ)》

- ◎巻頭言…………… 1
静岡県読書推進運動協議会理事 佐塚 慎己
- ◎令和元年度 優良読書グループ紹介…………… 2～3
★(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)
おとぎのへや(富士宮市)
- ★静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)
富士市学校読み聞かせネットワーク(富士市)

- わらしなわたげの会(静岡市)
- おはなしエプロン(島田市)
- 相小おはなし会(牧之原市)
- 大型紙芝居グループ・トンボの目(清水町)
- 米山文庫こども図書館(長泉町)
- ◎静岡県子ども読書読み聞かせネットワーク全体講演会報告 …… 4
- ◎静岡県図書館大会・大人の読書活動分科会報告 …… 4
- ◎静岡県読書推進運動協議会 推薦図書 …… 4

令和元年度 優良読書グループ紹介

【(公社)読書推進運動協議会長表彰(全国表彰)】

【おとぎのへや(富士宮市)】

「おとぎのへや」は、富士宮市立富士根南小学校で絵本の読み聞かせや語りを行っているボランティアグループです。平成元年4月に発足し、今年で31年目を迎えました。現在は発足当時のメンバーも在籍しており、若いお母さんからベテランまで様々な年代層の仲間が集まり、思いをひとつに活動に取り組んでいます。

毎年5月から3月までの活動の中で、1・2年生には毎月1回放課後の20分間を頂いて、各学年その月の課題本の他に1、2冊の絵本の読み聞かせや語りを行っています。各教室にごさを持ってお邪魔し、子どもたちに座ってもらい、読み手は椅子に座って読み聞かせをしています。3年生以上の各学年と特別支援学級では、それぞれ年間5～6回、朝読書の10分間を頂いて行っています。これらの通常の活動の他に、夏休みの自由プールの日程に合わせて行う夏休みおとぎや、6年生の卒業記念として行う卒業おとぎも、回数を重ね定着した活動になりました。

私たちは、読み聞かせが子どもたちに与える影響はとて大きいと感じています。その為、長く読み継がれていたり、絵や文がしっかりとした内容の絵本をよく吟味して、子どもたちに届けるよう努力しています。また、毎回ふり返りの時間をもつことで、子どもたちの反応や様子など気付いたことを意見しあい、次回の読み聞かせへの参考にしています。

子どもたちと絵本を楽しむ時間を共有することで、自分たちの肌で今の子どもたちを感じ、伝える立場としてどう対応していけばよいか勉強しながら、今後も未永く活動していきたいと考えています。



【静岡県読書推進運動協議会長表彰(県表彰)】

【富士市学校読み聞かせネットワーク(富士市)】

富士市学校読み聞かせネットワークは、ボランティアによる小中学校での読み聞かせ活動を、より質の高いものにするため、情報交換や学習を目的に、平成22年に発足しました。現在、市内全小中学校(43校)で活動している33団体が所属し、市内の静岡県子ども読書アドバイザーが、企画や運営を担っています。主な活動である年3回の定例会では、毎回色々なテーマで勉強会を行い、学び合うと共に、会員同志意見を交わしたり相談し合ったりする場にもなっています。これからも、富士市の子どもたちが本やお話を楽しみ、心豊かに育つことを願いながら、手を取り合って活動していきたいと思っています。

【わらしなわたげの会(静岡市)】

“わらしなわたげの会”は2005(平成18)年静岡市立薬科図書館主催の“読み聞かせボランティア養成講座”を受講したメンバー有志が結成したグループです。毎月第3水曜日に例会を持ち、活動計画を決めたり、会員相互の読み聞かせのレベルアップを図っています。無限とも言える本の魅力、楽しさを、大人から子どもまでの多くの人たちに知ってもらうよう、絵本の読み聞かせ、紙芝居、パネルシアター、手遊びなどで地元の薬科地域を中心に次のような活動を行っています。

- ・薬科図書館 “ふわふわおはなし会”
- ・薬科生涯学習センター 秋の文化祭
- ・薬科健康福祉センター ブックスタート
- ・谷津公民館 “さわやか健康サロン”
- ・楽寿の園 “デイサービス”



【おはなしエプロン(島田市)】

親子のふれあいの場作り、読書の楽しさを知るきっかけ作りを目的とした「島田市子育て読書活動推進事業」の一環として2004年に発足したグループです。50代～70代の8人で毎月1回未就園児の親子を対象に地域の公民館で読み聞かせ活動を行っています。わらべうた・絵本・紙芝居・ペープサート・作って遊ぼう等で楽しんだ後に支援センターの先生に子育て相談をしたり、お母さん同士情報交換をしたりの約1時間。12月にはお母さんグループも参加し広いホールでスペシャル版おはなし会を開きます。おはなしを聞きながら見せてくれる子ども達の無邪気な笑顔が活動の大きな励みです。これからも地域の親子に居心地のいい時間を届け続けたいです。



【相小おはなし会(牧之原市)】

相小おはなし会は27名の保護者やOBにより、1年生から3年生までの子ども達に大型絵本や手遊び、紙芝居などを演じ、楽しんでもらっています。季節や行事、授業内容を考慮して選書することを心掛け、OBの皆さんが代々制作して下さり、今も大切に保管しているパネルシアターや大型紙芝居も喜んでもらっています。この活動は37年引き継がれ、現在は県立中央図書館や牧之原市立図書館、牧之原市社会教育課、学校、ボランティアが協力し支えています。読書推進だけではなく、ボランティアが学校に行くことで、学校と地域、子ども達が繋がり、子ども達は見守られている事で安心でき、防犯にも繋がっています。子ども達の笑顔のために、今後も続けていきたいです。



【大型紙芝居グループ・トンボの目(清水町)】

私たち、グループ・トンボの目は、清水町の伝説、伝承、昔話を大型紙芝居にしているグループです。メンバーは7名、設立は1985年、活動を始めて35年になります。先人からの遺産、故郷の財産である伝説伝承を採集した町誌「清水町のむかしばなし」の刊行後、幼い人に分かり易く伝える試みに始められた紙芝居作りが、私たちの活動の始まりです。活動拠点の図書館では、資料の蒐集、調査、検討、作画作製等を行い、多くの助力をいただいています。現在、高齢者からの公演依頼が増え、その割合は子ども高齢者が半々です。活動を通して多くの事を学び、多くの人々に出会い、支援をいただいている事に感謝し、今後も活動に努めて行きたいと思います。



【米山文庫こども図書館(長泉町)】

米山文庫こども図書館は、昭和6年我が国ロータリーの創始者米山梅吉により1,000冊の本の寄贈からスタートし、こどもの絵本を中心に約8,000冊を所蔵し広く一般に開放されています。現在年間7,000名余りに約14,000冊が活用されるなど、親子や地域の交流の場を呈しています。

扉を開けると国産の杉板張り、素足で歩ける館内に米山梅吉の銅像とモコモコな羊のぬいぐるみレイチェルがお出迎えをして一目で見渡せる棚に絵本が並んでいます。おもちゃも置いてあるので小さなお子さんでも退屈せずに過ごすことができます。飲食可能なうえ、おむつ交換ができるスペースももうけられているところが魅力です。



静岡県読み聞かせネットワーク全体講演会報告

演 題：「絵本のこと。絵を描くこと。」

講 師：降矢なな氏

日 時：令和元年9月8日(日)13:30～15:30

会 場：静岡県立中央図書館 講堂

参加数：210名

今年の全体講演会は、画家の降矢なな氏をお招きしました。降矢氏は1961年東京生まれ。スロバキア共和国のプラチスラバ美術大学でドゥシャン・カーライ教授に師事し、本の挿絵と石版画を学ばれました。主な作品に『めっきらもつきらどおんどん』『ちょろりんのすてきなセーター』『やまばのむすめ まゆ』シリーズ(以上、福音館書店)、「おれたち、ともだち!」シリーズ(偕成社)など多くの作品を上梓されています。現在もスロバキア共和国に在住しながら、絵本やタブローの制作を続けてい

らっしゃいます。今回は数少ないご帰国の機会をいただき、ご来静の運びとなりました。ご講演には県内各地はもとより東京、名古屋からも参加者が集う一日となりました。

ご講演では、一冊ずつ手に取りながらそれぞれの作品についての特徴や、翻訳に際してどのように作品と向き合われているのか、お話されました。また、絵本を作るときは、テキストからのイメージをいろいろな角度から見て絵の構成を決めていくことや、その作品に合った画材の選定など、画家ならではのお話を伺うことができ、改めて絵本の奥深さを学んだ一日でした。



静岡県図書館大会・大人の読書活動分科会報告

大人の読書活動を推進する第3分科会では、読書の良さ、本の力を同時に楽しんでいただきたく清水克衛先生にご講演を頂きました。「読書のすすめ」という一風変わった書店の清水店長は、本のソムリエと呼ばれています。～逆のものさし講～と題して様々な視点からお話くださいました。

清水先生は書店に来たお客さんに声を掛けていきます。最初、声を掛けると変な顔をされ、反発されました。10人いて1人しか始めは買ってくれなかったそうです。けれども、声を掛け続けたのは、本にその人の一生をかえてしまう力が、普段のものさしを逆にする力があるからです。「恋愛に見返りをもとめてしまうんです」、「子供の顔をみると怒ってしまうんです」と、その人の悩みに合わせて本をお勧めしました。立地が悪くとも東京ディズニーランドには人が集まるように、書店「読書のすすめ」ではこれまで出逢えなかった本をお勧めするのです。

だから、新刊コーナーはなく、絶版になった良い本を復活させてもきました。

書店を開く24年前も読書離れが叫ばれていました。その原因は、「なぜ?」と考える人が少なくなったからではないでしょうか。今の日本人は損か得か、好きか嫌いか判断基準になっています。いつも勝つことばかり考えているから、がんになるとガンときてしまう。私の好きならめんとお酒が、体温になり髪の毛になるのはすごいことではないでしょうか。世の中のものさしを逆に当てて、身の周りにないものを感じられるのが、大人の読書活動だと清水先生はお話くださいました。



静岡県読書推進運動協議会推薦図書

シニア世代へおすすめする本

- 『一切なりゆき 樹木希林のことば』
樹木希林／著(文藝春秋 2018.12)
- 『60歳からの新・幸福論 定年後をラクに生きる新常識!』
曾根綾子ほか／著(宝島社 2018.12)
- 『人生は美しいことだけ憶えていればいい』
佐藤愛子／著(PHP研究所 2019.4)
- 『レンタルなんもしない人のなんもしなかった話』
レンタルなんもしない人／著(晶文社 2019.4)

若い人へおすすめする本

- 『読書する人だけがたどり着ける場所』
齋藤 孝／著(SBクリエイティブ 2019.1)
- 『モンテニユ 人生を旅するための7章』
宮下志朗／著(岩波書店 2019.7)
- 『クジラのおなかからプラスチック』
保坂直紀／著(旬報社 2018.12)
- 『月まで三キロ』
伊与原 新／著(新潮社 2018.12)